



## すごい人を紹介します

「オール1の落ちこぼれ、教師になる」「未来のきみが待つ場所へ 先生はいじめられっ子だった」などを書いた、高校の先生、宮本延春さんという人を紹介します。現在、政府の教育再生会議の委員もしています。

- 1歳の時に実の父母と別れ、養子として育ての両親に預けられる。
- 小学校3年生の頃から、「勉強嫌い」と「いじめ」に悩む。
- 小学校、中学校と転校を繰り返し、精神的・肉体的にひどい「いじめ」にあい、リストカットを決意するが未遂（みすい）に終わる。
- 中学校1年の時に「オール1」の通知表をもらい、その後も成績は音楽と技術が2で、それ以外は全て1。漢字は名前のみ、英単語はbookのみ、九九は2の段までしか書けないほど落ちこぼれる。
- 高校受験をあきらめ、中学卒業後は職業訓練校に通う。父親が倒れ、母親のパート収入だけでは家庭が経済的に立ち行かなくなる。
- 卒業後、大工見習いになるが、親方の罵倒（ばとう）に耐えられず2年で退職する。
- 母親が癌で死去、2年後に父親も病死し、18歳にして天涯孤独（てんがいこどく）になる。
- ミュージシャンに憧れ、音楽活動を行う。フリーターになる。
- 23歳の時に勉強開始。NHKスペシャル「アインシュタインロマン」に感銘を受け、物理学に関心を持ち、物理学を学びたいと大学受験を考え、小学校の算数ドリルから独学を始める。
- 24歳の時に豊川高等学校定時制に入学する。1年生の時、科学雑誌『ニュートン』の「天文学者になるには」という特集記事を読み、名古屋大学を第1志望と決め、本格的に受験勉強を開始する。
- 27歳で豊川高等学校定時制を卒業し、名古屋大学の推薦入試に合格する。名古屋大学大学院修士課程修了、同博士課程進学。
- 36歳で私立豊川高等学校の教諭に採用され現在に至る。

宮本さんは、自分を苦しめ続けた「悩み」について、次のように書いています。みなさんも参考にしてください。

この悩みというものは、私の経験上、大きく二つに分かれていると受け止めています。ひとつは「悩んでも何も変わらない悩み」、もうひとつは「悩む価値のある悩み」です。

「悩んでも何も変わらない悩み」というものは、明日の天気や、動かしようのない事実などのように、自分の力ではどうにもならないものです。この問題は、いくらクヨクヨして、ウジウジ悩んでいても、それだけで結果や現実は、少しも変わりません。余談ですが、あなたは1年前の悩みを覚えていますか・・・もし覚えていなければ、その程度の悩みだったということです。別の言い方をすれば、時間が解決してくれる悩みだった。そう言えるかもしれません。仮に、いま悩んでいることも、1年後には忘れられているならば、立ち止まってひどく悩んで苦しい時間を過ごすよりも、もっと楽しいことに時間を使うか、この悩みを解消するために、できる努力をする方が有意義ではないでしょうか。もし、明日の天気が心配ならば、晴れるかどうか悩むのではなく、雨のときの対策をできる限りすることです。極論を言えば、雨が降ってから考えても遅くはありません。また、過去に起きた出来事も同じように、どれだけ反芻（はんすう）して悩んでも、変わることはありません。できることは過去を教訓として、未来の自分に活かすことです。悩むときには「これは悩むことで何かが変わるのだろうか」と自問自答してみてください。おそらくじっと悩むよりも、行動に移す方が、よき結果につながるはずです。